

授業科目	看護学概論		担当講師名	副学校長
対象学年	1	単位-時間数	1-30	
授業目的	看護の主要概念、看護の対象となる人間とその生活、健康の概念、人が健やかに生きることを支えるための看護専門職の役割・機能、看護活動を提供するための場と仕組みを学ぶ			
授業目標及び概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会背景をふまえて、わが国の医療体制と看護の変遷を理解する</li> <li>・看護の本質を理論に基づいて理解する</li> <li>・看護の役割と機能:保健・医療・福祉における看護の役割を理解する</li> <li>・看護の対象である人間を様々な角度から学び、統合体として理解する</li> <li>・対象のニーズ、疾病の受容過程を理解する</li> <li>・健康の概念を理解し、健康レベルに応じた看護の役割、機能について理解する</li> <li>・対象が健やかに生きるための、看護の提供者と看護を提供する場について理解する</li> </ul>			
授業展開月日	時間	内容	教科書	授業方法
/	2	導入:看護師とは何をする職業なのか 看護の変遷	A	講義
/	2	看護の定義	A・B	講義
/	2	看護の役割と機能について	A・B	講義
/	2	看護ケアについて、看護実践とその質保証に必要な要件、看護の継続性と連携		
/	2	看護の対象の理解	A	講義
/	2	人間の「こころ」と「からだ」を知ることの意味		
/	2	生涯発達しつづける存在としての人間の理解、人間の「暮らし」の理解 病を経験する人		
/	2	健康と生活:健康のとらえ方、国民の健康状態	A	講義
/	2	看護理論家の定義:ナイチンゲール <GW・発表>	C	講義 演習
/	2	看護の提供者と看護提供のしくみ	A	講義
/	2	職業としての看護、看護職の資格・養成制度と課題、継続教育とキャリア開発		
/	2	看護理論家の定義:ヘンダーソン <GW・発表>	D	講義 演習
/	2	看護理論家の定義:ロイ、ワトソン、ウィーデンバック、ベナー <GW発表>	A	講義 演習
/	2	看護理論家の定義:オーランド、トラベルビー、オレム、レイニンガー <GW発表>	A	講義 演習
/	2	まとめ 試験(1h)	A・B	
		課題①「看護覚え書き 本当の看護とそうでない看護」を読んで テーマ:「看護覚え書きから学ぶ看護の本質」 用紙A4 2000字	C	
		課題②「看護の基本となるもの」を読んで テーマ:「看護の基本となるもの」を読んで要約と感想 用紙A4 2000字	D	
教科書	A:系統看護学講座 看護学概論 基礎看護学① 医学書院 B:手島恵監修 「看護者の基本的責務 定義・概念/基本法/倫理」 日本看護協会出版会 C:F.ナイチンゲール 「看護覚え書き 本当の看護とそうでない看護」 日本看護協会出版会 D:V.ヘンダーソン 「看護の基本となるもの」 日本看護協会出版会			
評価の方法	ペーパーテスト 課題			
メッセージ	看護師として実務経験のある講師が教授いたします。 看護を初めて学ぶ者として、第一に自分を取り巻く環境を整え自分自身の健康を考えることができるようになります。学ぶということは、考え続けながら自己決定していくことのくり返しであると思います。看護師を目指すみなさんと、共に考え、共に悩み、共に探し、共に笑いながら看護の本質を探究していきたいと思ひます。			

授業科目名	フィジカルアセスメント		担当講師名	専任教師 1 名
対象学年	1		単位-時間数	1-30
授業目的	フィジカルアセスメントの意義と方法、また、身体機能を正しく観察・判断するための技術を身につけ、対象の状態を、包括的・系統的に把握・アセスメントし、看護実践に活用できる基礎的能力を養う			
授業目標及び概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護実践におけるヘルスアセスメントの意義と重要性が理解できる</li> <li>・ヘルスアセスメントに必要な基本技術が習得できる</li> <li>・バイタルサインが正確に測定でき、測定結果について専門用語を用いて表現できる</li> <li>・測定結果について基準値からの逸脱に気づくことができる</li> <li>・人体の構造と機能に関する知識をもとにフィジカルアセスメントの根拠が理解できる</li> <li>・適切で正確なフィジカルイグザミネーションができる</li> <li>・フィジカルイグザミネーションの結果について専門用語を用いて表現できる</li> </ul>			
授業展開月日	時間	内容	教科書	授業方法
/	2	I. ヘルスアセスメントとは ヘルスアセスメントの意義と目的 II. ヘルスアセスメントの実際 1. 問診の技術 健康歴聴取の目的と実際 2. ヘルスアセスメントに必要な技術: 視診 触診 聴診 打診	A・B	講義・演習
/	2	3. バイタルサインの観察とアセスメント 1) 体温 : 体温とは 体温の測定部位と方法 2) 脈拍 : 脈拍とは 脈拍の測定部位と方法	A・C	講義・演習
/	2	3) 呼吸 : 呼吸とは 呼吸測定の方法 4) 意識 : 意識とは 意識レベルのアセスメント	〈演習〉 ・デモンストレーション ・DVD 視聴	講義・演習
/	2	5) 血圧 : 血圧とは 血圧測定の方法	A・C	講義・演習
/	2	バイタルサイン測定 演習	A・B・C	講義・演習
/	2	4. 身体計測 5. 系統別フィジカルアセスメント 頭頸部のフィジカルアセスメント	〈演習〉 ・デモンストレーション ・DVD 視聴	講義・演習
/	2	呼吸器系のフィジカルアセスメント	・フィジコ、ラング II の使用	講義・演習
/	2	呼吸器系のフィジカルアセスメント	B	講義・演習
/	2	循環器系のフィジカルアセスメント	B	講義・演習
/	2	循環器系のフィジカルアセスメント 乳房・腋窩のフィジカルアセスメント	A・B	講義・演習
/	2	腹部のフィジカルアセスメント	A・B	講義・演習
/	2	筋・骨格系のフィジカルアセスメント	A・B	講義・演習
/	2	神経系のフィジカルアセスメント	A・B	講義・演習
/	2	頭頸部と感覚器のフィジカルアセスメント	A・B	講義・演習
/	1	まとめ	A・B・C	
/	1	試験		
教科書	A: 系統看護学講座 基礎看護技術 I 基礎看護学② 医学書院 B: フィジカルアセスメントガイドブック 第 2 版 目と手と耳でここまでわかる 医学書院 C: 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 医学書院			
評価の方法	ペーパーテスト 課題 学習態度 技術試験(バイタルサイン測定)			
メッセージ	看護師として実務経験のある講師が教授いたします。ヘルスアセスメントは看護実践の始まりから終了まで一貫して使われる、最も基本的で重要な看護技術の一つです。しっかり自分の目と手と耳を働かせて、技術を身につけましょう。「フィジコ」さん・「ラング II」さん とお友達になって下さい。			

授業科目名	食事・排泄の援助技術		担当講師名	専任教師 2 名
対象学年	1	単位-時間数	1-30	
授業目的	健康な日常生活における「食事と排泄」について理解し、健康状態の変化に伴う「食事と排泄」のアセスメント方法及び看護援助の基本となる技術を修得する			
授業目標及び概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康な日常生活における食事の意義が理解できる</li> <li>栄養状態および摂食能力や食欲等のアセスメントの方法が理解できる</li> <li>食事介助の基本的な援助技術を理解し、食事摂取の自立が困難な対象に安全に必要な栄養量の摂取ができる方法が理解できる</li> <li>非経口的栄養摂取の援助の概略について学び、経鼻経管栄養法に必要な基本的技術が修得できる</li> <li>排泄の意義とメカニズム、アセスメントの方法が理解できる</li> <li>自然排泄の基本的な援助を理解するとともに、自然排泄が困難な対象に安全な導尿・浣腸・摘便の基本的技術が修得できる</li> </ul>			
授業展開 月日	時間	内容		授業方法
/	2	1. 食事援助の基礎知識		講義
/	2	2. 食事摂取の援助		講義
/	2	1) 基本的な食事介助の実際 2) 食事摂取の自立困難な人への援助		講義
/	2	3. 非経口的栄養摂取の援助 1) 経鼻経管栄養法 2) 経静脈栄養法		講義
/	4	3) モデル人形への経鼻胃チューブの挿入<デモンストレーション・演習>		講義
/	2	1. 自然排尿および自然排便の基礎知識 排泄の意義、排泄に影響する要因、排泄のアセスメント		講義
/	4	2. 自然排便および自然排尿の援助の実際 1) 便器・尿器の準備、床上排泄<演習> 2) おむつ交換<演習> 3) ポータブルトイレでの排泄の援助		演習
/	2	3. 自然な排便が困難な人への援助		講義
/	3	4. 排便を促す援助 1) 浣腸<デモンストレーション・演習> 2) 摘便<動画視聴>		演習
/	2	5. 自然な排尿が困難な人への援助		講義
/	4	6. 持続的導尿 <デモンストレーション・演習>		演習
	1	試験		
教科書	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院			
参考書	看護がみえる vol①、vol② メディックメディア			
評価の方法	ペーパーテスト 課題			
メッセージ	看護師として実務経験のある講師が教授いたします。日常生活の中で対象を十分観察できるためには、生理的なメカニズムの理解と確実な知識を身につけることが必要です。事前事後学習をしっかりと行い、自信をもって技術を実践するために、放課後や空き時間を使って、繰り返し練習をしていきましょう。			

授業科目名	家族看護		担当講師名	専任教師 1 名 非常勤講師 1 名
対象学年	1	単位-時間数	1-15	
授業目的	対象をとりまく家族を全体ととらえ、家族看護の基本を学ぶ			
授業目標 及び概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代家族の特徴、家族員の健康障害に伴うとりまく家族への影響および家族システムの特徴を知り、家族の発達段階における主な発達課題について理解することで家族を看護するということを理解する</li> <li>・家族の病気体験による生活への影響や療養を理解し、病気や家族を多方面からとらえ家族のニーズを把握する重要性を学ぶ</li> <li>・健康障害を伴う家族の演習を通して、家族看護を支える理論や介入方法の実際を考える</li> </ul>			
授業展開 月日	時間	内容		授業方法
/	2	1. 家族について考える 1) 看護における家族の定義      2) 家族の機能とは 3) 家族を理解するための基礎理論      4) わが国の家族の変遷 5) 現在のわが国の家族の特徴		講義 演習
/	2	2. 要介護者を介護する家族について学ぶ 1) 要介護者を介護する家族の状況 2) 介護によって家族にもたらされる影響 3. 家族を看護するとはどのようなことか 1) 家族看護の目的・目標 2) 家族を看護する基本姿勢		講義
/	2	4. 援助対象の家族を理解する 1) 家族像を形成するための視点 2) 家族像を形成するための枠組み 3) 情報をどのようにして得るか 4) 事例から援助対象への支援方法を考える		講義 演習
/	2	5. 在宅看護における家族への援助 1) 個々の家族成員に対する援助 2) 家族成員間の関係性に働きかける援助 3) 家族の社会性に働きかける援助		講義
/	2	6. 在宅療養のプロセスと援助の課題 1) 在宅療養が目指すものと看護の役割 2) 症状の変化に応じた在宅看護のポイント		講義
/	3	7. 在宅における家族看護の実際 1) 健康障害を伴う家族の苦悩を考える <GW> 2) 事例の展開を通して援助の方向性と援助方法を考えることができる 3) 家族看護を支える理論と介入法を理解することができる 4) 発表		講義 演習
/	1	まとめ		
/	1	試験		
教科書	A: 系統看護学講座 地域・在宅看護論① 医学書院 B: 家族看護を基盤とした地域・在宅看護論 第6版 日本看護協会出版会			
参考書				
評価の方法	ペーパーテスト 課題 授業参加態度			
メッセージ	家族支援専門看護師、訪問看護師、介護支援専門員として地域を含む実務経験のある講師が教授いたします。多様性に富んだ現代家族について理解するとともに、一緒に家族看護の基本を考えていきましょう			



授業科目名	疾患別看護Ⅰ		担当講師名	非常勤講師 5名	
対象学年	2		単位－時間数	1－30	
授業目的	脳血管・神経系・運動器・感覚器の健康障害をもつ対象に既修の知識・技術を統合して必要な看護援助の基礎的能力を養う				
授業目標及び概要	脳血管・神経系、感覚器・運動器の健康障害をもつ対象の問題解決のために必要な援助方法を理解する				
授業展開月日	時間	内容		授業方法	教科書
／	2	脳血管・神経機能障害のある患者の看護		講義	A
／	2	1. 症状に対する看護:頭痛,嘔吐,意識障害,JCS,片麻痺,言語・高次脳機能障害			
／	2	2. 検査・処置を受ける患者の看護:脳波・髄液検査,脳血管造影			
／	2	3. 治療を受ける患者の看護:開頭術,血管バイパス術,脳室ドレナージ,血管内治療 脳室－腹腔シャント,低体温療法,穿頭術			
／	2	4. 疾患をもつ患者の看護:脳卒中,パーキンソン病,筋委縮性側索硬化症,水頭症,脳動脈瘤, クモ膜下出血,慢性硬膜下血腫,脳腫瘍,ギランバレー症候群			
／	2	5. 脳室ドレーンの演習、レベル(JCS,GCS)の観察<演習>			
／	2	感覚機能障害をもつ患者の看護【眼】		講義	B
／	2	1. 症状に対する看護:視覚障害,視野異常,夜盲・複視,飛蚊症,虹視症, 眼圧亢進症状,眼痛,充血,流涙,眼脂			
／	2	2. 検査・処置を受ける患者の看護:視力検査,眼底検査,眼圧検査,流涙分泌検査,視野検査			
／	2	3. 治療を受ける患者の看護:網膜剥離治療,眼底光凝固法,義眼,麦粒腫切開			
／	2	4. 疾患をもつ患者の看護:白内障,緑内障,網膜剥離,糖尿病網膜症,斜視,角膜移植, ロービジョンケア			
／	2	5. 目薬・眼軟膏の投与方法<演習>			
／	2	感覚機能障害をもつ患者の看護【耳鼻・咽頭・喉頭】		講義	C
／	2	1. 症状に対する看護:鼻出血,耳鳴り,眩暈,耳痛,耳漏,嗄声,聴覚・言語・嗅覚障害			
／	2	2. 検査・処置を受ける患者の看護:オージオメータ検査,耳腔内内視鏡,聴力検査			
／	2	3. 治療を受ける患者の看護:止血,気管切開,扁桃腺摘出術,補聴器,手術療法			
／	2	4. 疾患をもつ患者の看護:突発性難聴,メニエール病,副鼻腔炎,中耳炎,口腔・咽頭腫瘍 (舌癌,咽頭がん,喉頭癌)			
／	2	感覚機能障害をもつ患者の看護【皮膚】		講義	D
／	2	1. スキンケア			
／	2	2. 症状に対する看護:掻痒感,落屑,発疹,熱感,悪寒			
／	2	3. 検査・処置を受ける患者の看護:アレルギー検査,顕微鏡検査,病理組織検査,皮膚・粘膜 生検			
／	2	4. 治療を受ける患者の看護:レーザー療法,外用療法,光線療法			
／	2	5. 疾患をもつ患者の看護:熱傷,褥瘡,アトピー性皮膚炎,皮膚がん,带状疱疹			
／	2	運動器機能障害のある患者の看護		講義	E
／	2	1. 症状に対する看護:姿勢機能障害,移動機能障害,作業機能障害,骨粗鬆症			
／	2	2. 検査・処置を受ける患者の看護:可動域ROM検査,徒手筋力テスト(MMT),造影,生検			
／	2	3. 治療を受ける患者の看護:ギプス固定,牽引法,人工関節置換術			
／	1	4. 疾患をもつ患者の看護:大腿骨頸部骨折,脊椎圧迫骨折,腰椎脊柱狭窄症, 脊髄損傷,脊髄腫瘍,捻挫,脱臼			
／	1	試験			
教科書	A:系統看護学講座 脳・神経 成人看護学⑦ 医学書院 B:系統看護学講座 眼 成人看護学⑬ 医学書院 C:系統看護学講座 耳鼻咽喉 成人看護学⑭ 医学書院 D:系統看護学講座 皮膚 成人看護学⑫ 医学書院 E:系統看護学講座 運動器 成人看護学⑩ 医学書院				
評価の方法	ペーパーテスト				
メッセージ	看護師、認定看護師(脳卒中リハビリテーション看護、皮膚・排泄ケア)として実務経験のある講師が教授いたします。対象の健康生活の目標を達成するために、脳血管・神経系、感覚器、運動器患者の看護について学びましょう。				

授業科目名	疾患別看護Ⅱ		担当講師名	専任教師1名 非常勤講師6名	
対象学年	2		単位-時間数	1-30	
授業目的	消化器・内分泌の健康障害をもつ対象に既修の知識・技術を統合して必要な看護援助の基礎的能力を養う				
授業目標及び概要	消化・吸収機能障害、内分泌の健康障害をもった成人期対象の問題解決のために必要な援助方法を理解 する				
授業展開	時間	内容	授業方法	教科書	
／	2	消化・吸収機能障害をもつ患者の経過と看護 1. 症状に対する看護;咀嚼・嚥下障害、消化管機能障害、膵液分泌障害、胆汁分泌障害	講義	A	
／	2	2. 検査を受ける患者の看護;上部消化管内視鏡、大腸内視鏡、内視鏡的逆行性胆管膵管造影、消化管造影、直腸診、腹部超音波、肝生検			
／	2	3. 治療を受ける患者の看護;胃瘻、空腸瘻、食道静脈瘤硬化療法経腸栄養法、経静脈栄養法、肝庇護療法、インターフェロン療法、食道癌内視鏡治療、肝動脈塞栓術			
／	2	4. 疾患をもつ患者の看護; 上部消化管腫瘍(食道癌、胃癌)、下部消化管腫瘍(大腸がん、結腸がん)、潰瘍性大腸炎、クローン病、潰瘍性疾患(胃・十二指腸)胆石症、膵炎、肝炎、肝硬変、肝癌	講義		
／	2	上部・下部消化管、膵・胆・肝の手術を受ける患者の経過と看護 1. 治療を受ける患者の看護;胃切除術、食道切除術、大腸切除術、膵切除術、腹腔鏡視下手術、人工肛門造設術、肝切除術	講義	A	
／	2	2. 疾患をもつ患者の看護; 上部消化管腫瘍(食道癌、胃癌)、下部消化管腫瘍(大腸がん、結腸がん)、潰瘍性疾患(胃・十二指腸)、胆石症、膵がん、肝癌			
／	2	2			
／	2	内分泌・代謝機能障害のある患者の経過と看護 1. 症状に対する看護;血糖調節機能障害、(高血糖低血糖症状)甲状腺機能障害、副腎機能障害、下垂体機能障害、甲状腺クリーゼ、テタニー	講義	B	
／	2	2. 検査を受ける患者の看護;糖負荷試験、血糖自己測定(演習)、ホルモン負荷試験、ホルモン血中、尿中濃度測定			
／	2	3. 治療を受ける患者の看護;インスリン補充療法、糖尿病経口薬による治療、甲状腺ホルモン療法、食事指導、フットケア			
／	1	4. 疾患をもつ患者の看護;①甲状腺がん②下垂体腫瘍③甲状腺機能低下症④甲状腺機能亢進症 ⑤1型糖尿病、2型糖尿病、糖尿病性昏睡⑥高尿酸血症、脂質異常症、肥満			
／	2	消化器 手術療法を受ける患者の看護;開腹手術を受ける患者の看護 ⑥内分泌疾患の手術療法を受ける患者の看護 ;甲状腺切除術	講義	A C	
／	2	スーメイクア コロストマー、ウロストミー、スーメイクアサイトマーキング、スーメイク交換(演習)	講義 演習	A	
／	2	簡易血糖測定<演習>	講義 演習	D	
／	1	試験			
教科書	A: 専門Ⅱ 消化器 成人看護学⑤ 医学書院 B: 専門Ⅱ 内分泌・代謝 成人看護学⑥ 医学書院 C: 別巻 臨床外科看護各論 医学書院 D: 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 医学書院				
評価の方法	ペーパーテスト				
メッセージ	看護師、認定看護師(手術室看護、糖尿病看護、皮膚・排泄ケア)として実務経験のある講師が教授いたします。対象の健康生活の目標を達成するために、消化・吸収機能障害、内分泌の健康障害をもつ対象の看護について学びましょう。				

授業科目名	疾患別看護Ⅲ		担当講師名	専任教師2名 非常勤講師3名	
対象学年	2		単位-時間数	1-30	
授業目的	循環器・呼吸器の健康障害をもつ対象に既修の知識・技術を統合して必要な看護援助の基礎的能力を養う				
授業目標及び概要	循環器系・呼吸器系の健康障害をもった成人期対象の問題解決のために必要な援助方法を理解する 呼吸器疾患患者の事例を通して、成人患者の看護過程の展開について理解する				
授業展開	時間	内容		授業方法	教科書
／	2	循環器疾患をもつ患者の経過と看護 1. 症状に対する看護 胸痛 動悸 浮腫 呼吸困難 チアノーゼ 失神 四肢の疼痛		講義	A
／	2	2. 検査を受ける患者の看護; 心臓カテーテル法 心電図検査 運動負荷試験 血行動態モニタリング 動脈血液ガス分析 画像診断 3. 治療を受ける患者の看護; カテーテル治療 薬物療法			
／	2	手術を受ける患者の看護 ①冠状動脈バイパス術(事例A) ②弁置換術・弁形成術 ③大血管再建術 ④血栓除去術 補助循環装置を装着する患者 心臓リハビリテーションと看護			
／	2	4. 疾患をもつ患者の看護 ①虚血性心疾患患者 ②心不全患者(事例C)		講義	
／	2	③血圧異常患者 ④不整脈患者(事例B)			
／	2	⑤弁膜症患者 ⑥心筋症患者 ⑦先天性疾患患者 ⑧動脈性疾患患者 ⑨静脈性疾患患者 ⑩資質異常患者			
／	2	呼吸器疾患をもつ患者の経過と看護 1. 症状に対する看護; 咳嗽・喀痰 血痰 胸痛 呼吸困難		講義	B・C
／	2	2. 検査を受ける患者の看護; 内視鏡検査 肺組織の生検 3. 治療を受ける患者の看護; 吸入療法 酸素療法 人工呼吸器装着 気管切開 呼吸リハビリテーション 胸腔ドレナージ			
／	2	4. 疾患をもつ患者の看護 ①慢性閉塞性肺疾患患者の看護 ②気管支喘息患者の看護 ③睡眠時無呼吸症候群患者の看護④肺がん手術を受ける患者の看護			
／	2	⑤肺炎患者の看護 ⑥結核患者の看護 ⑦肺血栓塞栓症患者の看護 ⑧急性呼吸窮迫症候群患者の看護		講義	B
／	2	⑨肺がん患者の看護 ⑩自然気胸患者の看護			
／	2	事例による看護過程の展開 肺がん手術を受ける患者の看護		講義	B・D
／	2				
／	3				
／	1	試験			
教科書	A: 専門Ⅱ 循環器 成人看護学③ 医学書院		C: 別巻 臨床外科看護各論 医学書院		
	B: 専門Ⅱ 呼吸器 成人看護学② 医学書院		D: 別巻 臨床外科看護総論 医学書院		
参考書	矢田昭子, 島根大学医学部附属病院看護部: 基準看護計画地域・在宅を視野に入れた看護診断と潜在的合併症, 第4版, 照林社, 2024				
評価の方法	ペーパーテスト 課題				
メッセージ	看護師として実務経験のある講師が教授いたします。 対象の健康生活の目標を達成するために、循環器や呼吸器疾患患者の看護について学びましょう。				

授業科目名	疾患別看護Ⅳ		担当講師名	非常勤講師 6名	
対象学年	2		単位－時間数	1－30	
授業目的	血液・造血器・アレルギー・膠原病・感染症・女性生殖器・腎泌尿器の健康障害をもつ対象に既修の知識・技術を統合して必要な看護援助の基礎的能力を養う				
授業目標及び概要	血液・造血器・アレルギー・膠原病・感染症・女性生殖器・腎泌尿器の健康障害をもつ成人期対象の問題解決のために必要な援助方法を理解する				
授業展開	内容			授業方法	教科書
／	2	血液・造血器疾患をもつ患者の経過と看護		講義	A
／	2	1. 症状に対する看護;免疫機能障害、骨髄機能障害			
／	2	2. 検査を受ける患者の看護;骨髄穿刺、末梢血検査、骨髄生検、リンパ生検、出血傾向の検査			
／	2	3. 治療を受ける患者の看護;造血幹細胞移植、化学療法、免疫療法			
／	2	4. 疾患をもつ患者の看護; ①血液悪性疾患 ②貧血 ③悪性リンパ腫 ④血友病			
／	2	アレルギー・膠原病・感染症のある患者の経過と看護		講義	B
／	2	1. 症状に対する看護;免疫機能障害、生命・生活への影響			
／	2	2. 検査を受ける患者の看護;スキャンテスト、血清・免疫学的検査、病理組織学的検査、病原微生物検査			
／	1	3. 治療を受ける患者の看護;減感作療法、薬物療法、手術療法			
／	1	4. 疾患をもつ患者の看護 ①アレルギー性疾患 ②自己免疫疾患 ③感染症、HIV			
／	2	女性生殖器機能障害のある患者の経過と看護		講義	C
／	2	1. 症状に対する看護;性・生殖機能障害、ホルモン欠如症状			
／	2	2. 検査を受ける患者の看護;腹部・経膈超音波検査、乳房超音波検査、マンモグラフィ、HPV 検査、内診、膣鏡診、直腸診、染色体検査			
／	2	3. 治療を受ける患者の看護;女性生殖器手術、乳がん手術、ホルモン療法、薬物療法、膣洗浄			
／	2	4. 疾患をもつ患者の看護; ①女性生殖器疾患 ②腫瘍 ③生殖器機能障害			
／	2	④乳癌手術療法を受ける患者の看護		講義	C
／	2	腎・泌尿器機能障害のある患者の経過と看護		講義	D
／	2	1. 症状に対する看護;液量調整機能障害、電解質調整機能障害、蓄尿・排尿障害、性・生殖機能障害			
／	1	2. 検査を受ける患者の看護;尿流動態検査、残尿測定、膀胱鏡、腎生検、静脈性尿路障害			
／	2	3. 治療を受ける患者の看護;急性持続血液濾過透析、血液透析、腹膜透析、手術療法、腎移植、ホルモン療法、勃起障害治療、性交障害治療		講義	D
／	2	4. 疾患をもつ患者の看護 ①急性腎不全 ②慢性腎不全 ③慢性腎臓病 ④腎移植術後 ⑤腎・尿路結石⑥腫瘍			
／	1	①急性腎不全 ②慢性腎不全 ③慢性腎臓病 ④腎移植術後 ⑤腎・尿路結石⑥腫瘍			
／	1	試験			
教科書	A: 専門Ⅱ 血液・造血器 成人看護学④		医学書院		
	B: 専門Ⅱ アレルギー・膠原病・感染症 成人看護学⑩		医学書院		
	C: 専門Ⅱ 女性生殖器 成人看護学⑨		医学書院		
	D: 専門Ⅱ 腎・泌尿器 成人看護学⑧		医学書院		
参考書					
評価の方法	ペーパーテスト				
メッセージ	看護師、認定看護師(手術室看護)として実務経験のある講師が教授いたします。 対象の健康生活の目標を達成するために、血液・造血器・アレルギー・膠原病・感染症・女性生殖器・腎泌尿器疾患患者の看護について学びましょう。				

授業科目名	老年看護学概論		担当講師名	院外講師 1 名
対象学年	1	単位-時間数	1-15	
授業目的	老年期の特徴を理解し、社会構造の変化や高齢者の様々な健康問題、保健医療福祉制度について理解する			
授業目標及び概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の生きてきた時代について理解できる</li> <li>・老年看護の基盤となる概念について理解できる</li> <li>・老年期の身体的・精神的・社会的特徴が理解できる</li> <li>・高齢者を取り巻く現状と社会的高齢者問題について理解できる</li> <li>・高齢者の生活に関連する保健医療福祉制度について学び、その人らしい生活の継続について考えることができる</li> </ul>			
授業展開 月日	時間	内容		授業方法
/	2	1. 高齢者を理解しよう 老年期と発達・変化 高齢者の生活 加齢への適応 高齢者のいる家族の変化		講義
/	2	高齢者理解のための演習①<GW>		演習
/	2	高齢者理解のための演習②<GW>		演習
/	2	高齢者理解のための演習③<GW>発表、まとめ		演習
/	2	2. 老年看護の特徴と概念		講義
/	2	3. 高齢者の生活に関連する保健医療福祉制度について		講義
/	2	4. 高齢者の健康と疾病		講義
/	1	試験		
教科書	系統看護学講座 老年看護学 医学書院 国民衛生の動向 2026/2027 一般社団法人厚生労働統計協会			
参考書	ストレングスモデル実践活用術 萱間真美 医学書院			
評価の方法	出席時間 ペーパーテスト 授業態度 課題			
メッセージ	看護師として実務経験のある講師が教授いたします。 老年看護学を学ぶにあたって、まずは高齢者を知ることから始めます。 これまでの人生について身近な高齢者の方に伺い、時代背景に則して重ねてこられた経験から得られたことを理解していきましょう。			

授業科目名	老年看護技術	担当講師名	専任教師 1 名
対象学年	1	単位-時間数	1-15
授業目的	様々な健康状態にある高齢者の生活および健康を支える看護技術について学ぶ 高齢者に特徴的な災害時の看護について理解する		
授業目標 及び概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の特徴を踏まえ、生活を支えるための援助技術について学ぶことができる</li> <li>・リスクマネジメントの視点を持ち、災害時の高齢者への長期的かつ継続的な支援について学ぶことができる</li> </ul>		
授業展開 月日	時間	内容	授業方法
/	4	高齢者の生活を支える看護について① 高齢者の機能と評価 転倒転落の発生要因、影響、予防に向けた援助 日常生活動作に対する見守りと援助<演習>	講義・演習
/	4	高齢者の生活を支える看護について② 加齢に伴う排泄機能の変化 高齢者に起こりやすい排尿・排便障害 高齢者の排泄能力に応じた援助<演習>	講義・演習
/	2	高齢者の生活を支える看護について③ 高齢者に生じやすい清潔に関する健康課題 入浴行動に伴う危険性と高齢者の皮膚の特徴を踏まえた援助	講義・演習
/	2	高齢者の生活を支える看護について④ 加齢による睡眠の特徴と睡眠障害 高齢者に起こりやすいコミュニケーション障害 高齢者の状態・状況に応じたコミュニケーションの方法 <演習>	講義・演習
/	2	災害時の高齢者支援について 避難所での生活と健康の維持 指定避難所における支援	講義
/	1	試験	
教科書	系統看護学講座 老年看護学 医学書院		
参考書	☆根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院		
評価の方法	出席時間 ペーパーテスト 課題		
メッセージ	<p>看護師として実務経験のある講師が教授いたします。</p> <p>高齢者の生活機能についてアセスメントし、残存・潜在能力を最大限に引き出しながら安全でその人らしい生活が実現できるような援助について一緒に考えていきましょう。</p>		

授業科目名	小児看護学概論		担当講師名	専任教師 1 名	
対象学年	1		単位一時間数	1-15	
授業目的	子どもを取り巻く環境と環境が与える影響について学習し、子どもの健やかな成長を支えるための小児看護の役割を知る 成長発達についての知識をもとに各小児看護の健康増進のための看護を学ぶ				
授業目標 及び概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会における子どもや家族を取り巻く諸問題や課題を知る</li> <li>・小児看護の変遷や社会的現状から、小児看護の特徴や理念、目的を理解できる</li> <li>・子どもの成長発達の原則および評価について理解できる</li> <li>・小児科各期の発達段階の特徴(形態的、機能的、心理的、社会的側面)を理解できる</li> <li>・発達段階に応じたかかわり方や健康増進のための援助方法を理解できる</li> </ul>				
授業展開 月日	時間	内容		授業方法	教科書
	2	第1章 小児看護の特徴と理念 (小児看護における倫理は除く) A)小児看護の対象 B)子どもと家族の動向 C)小児看護の変遷 E)小児看護の課題 第2章 子どもの成長と発達		講義	A
	2	第3章 新生児・乳児期の成長発達と養育および看護			
	2	第4章 幼児・学童期の成長発達と養育および看護			
	2	第5章 思春期・青年期成長発達と養育および看護			
	2	第6章 家族の特徴とアセスメント A)子どもにとっても家族とは B)家族のアセスメント			
	2	第1章 小児看護における倫理 A)子どもの権利 B)倫理原則		講義	A・B
	2	第7章 子どもを取り巻く社会 A)これまでの変遷と現在の状況 B)子育て支援 C)子どもの医療／予防接種 D)子どもの安全 E)学校保健		講義	A・C
	1	筆記試験			
教科書	A:系統看護学講座 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学① 医学書院 B:看護職の基本的責務2026年版 日本看護協出版会 C:国民衛生の動向 2026/2027 一般財団法人厚生労働統計協会				
参考書	看護が見える 対象の理解 I Vol.5 医療情報科学研究所編集				
評価の方法	課題 ペーパーテスト				
メッセージ	看護師、助産師として実務経験のある講師が教授いたします。 小児看護学概論は、小児看護学の学習の基礎となる科目です。子どもの成長発達や子どもを取り巻く社会の動き、子どもの基本的人権を守るための法律や条約などを学び、子どもおよび小児看護に対する関心が高まることを期待します。				

授業科目名	子どもの看護技術		担当講師名	専任教師 1 名
対象学年	1	単位－時間数	1－15	
授業目的	子どもを対象とした看護技術を安全に実施するための基本的な知識や技術、態度を学ぶ			
授業目標 及び概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉での表現が十分ではないあらゆる発達段階にある子どものニーズを適切に把握し、子どもと家族に応じた看護を提供するためのコミュニケーションの基本が理解できる</li> <li>・成人とは異なる特徴を持つ子どもに対し、検査や処置における看護師の役割と援助が理解できる</li> <li>・子どもの事故の特徴を理解したうえで、観察方法や対処方法が実践できる</li> </ul>			
授業展開 月日	時間	内容	授業方法	
/	2	小児看護技術の基盤となる考え方、コミュニケーション方法	講義	
/	2	抱き方、身体測定、バイタルサイン測定	講義	
/	2	安全な環境の調整と事故予防、気道異物除去、一次救命処置	講義	
/	4	遊びの工夫、プレパレーション <プレゼンテーション>	講義	
/	2	与薬と輸液管理、検査の介助(腰椎穿刺・骨髄穿刺)	講義	
/	2	清潔ケア、おむつ交換、検体採取(採尿)	講義	
/	1	筆記試験		
教科書	系統看護学講座 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学① 医学書院 小児看護技術演習テキスト ～子どもの権利擁護の実践をめざして～ へるす出版			
参考書	講義中に掲示する			
評価の方法	ペーパーテスト 課題 プレゼンテーション			
メッセージ	看護師として実務経験のある講師が教授いたします。子どもの権利を擁護しながら、どのように看護技術を実践していくのか学びましょう。			

授業科目名	母性看護学概論		担当講師名	専任教師 1 名	
対象学年	1		単位-時間数	1-15	
授業目的	母性の基盤となる概念、人間の性と生殖の意義を理解し、生命の尊厳についての考えを深めると共にライフステージ各期における健康問題について学ぶ。また、母性看護学の歴史とその変遷を知り、母性看護を取り巻く環境の特徴と現状を知ることで母性の役割に及ぼす影響について学ぶ。				
授業目標及び概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>母性とは何かについて幅広く考えることができ、母性看護の基盤となる概念について理解できる。</li> <li>母性看護の対象を取り巻く社会変遷とライフスタイルの変化等と組織・法律・施策との関連を学び、看護職の役割を理解できる。DVの定義と実態、被害者への支援を理解できる。子どもの虐待や在日外国人の母子保健に関する課題と母性看護の役割について考えることができる。</li> <li>思春期・成熟期・更年期・老年期女性の特徴や健康問題と看護のあり方を理解できる。</li> </ul>				
授業展開 月日	時間	内容		授業方法	教科書
/	2	1. 母性看護の基盤となる概念 1) 母性とは 2) 母子関係と家族発達 3) セクシュアリティ 4) リプロダクティブヘルス/ライツ 5) 母性看護のあり方		講義	A
/	2	2. 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状 1) 母子保健統計<GW>		講義	A・B
/	2	<GW 発表> まとめ 2) 母性看護学の歴史的変遷と現状 3) 母性看護に関わる法律 4) 母性看護に関わる施策		講義	A
/	2	3. 女性のライフステージ各期における看護 1) 思春期の健康と看護 2) 成熟期の健康と看護 3) 更年期・老年期の健康と看護		講義演習	
/	2	4. リプロダクティブヘルスケア <GW> ・家族計画 ・性感染症とその予防 ・HIVに感染した女性に対する看護		講義演習	
/	2	・人工妊娠中絶と看護 ・性暴力を受けた女性に対する看護 ・児童虐待と看護		講義演習	
/	2	リプロダクティブヘルスケア<GW発表> まとめ ・喫煙女性の健康と看護 ・国際化社会と看護		講義演習	
/	1	5. 試験			
教科書	A: 専門Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学① 医学書院 B: 国民衛生の動向2026/2027				
参考書					
評価の方法	ペーパーテスト、課題提出、授業態度				
メッセージ	助産師として実務経験のある講師が授業いたします。 種族保存と個々の人が社会のなかで人として生きることとの関係を考え、「産む」「育てる」と「人として生きる」との関連を考えていきましょう。				

授業科目名	母性看護技術		担当講師名	専任教師 1 名 非常勤講師 1 名
対象学年	1	単位-時間数	1-15	
授業目的	周産期の対象の健康状態に応じた看護を提供するために、必要な母性看護の基本的看護技術を修得する。			
授業目標及び概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・妊婦体験を通して、妊娠による心身の変化と日常生活に及ぼす影響、看護者としてのケアや支援を考えることができる。妊婦に必要な看護技術を理解し、身につける。</li> <li>・産婦に必要な呼吸法・産痛緩和の援助技術を理解する。</li> <li>・褥婦の子宮底・乳房観察に必要な看護技術を理解し、身につける。産褥体操について理解できる。</li> <li>・新生児の看護に必要な看護技術を理解し、身につける。</li> </ul>			
授業展開月日	時間	内容		授業方法
／	2	1. 対象(妊婦)の理解 <演習> 1) 妊婦体験 2) 腹帯		講義演習
／	2	2. 妊婦期の看護技術 1) 妊婦健診について DVD視聴 2) 子宮底・腹囲の測定 3) 超音波・内診の介助 4) 胎位・胎向について		
／	2	5) レオポルド触診法 <演習> 6) 間欠的胎児心拍数聴取(ドップラー) 7) ノンストレステスト(NST)の装着		
／	2	8) 胎児心拍数陣痛図の判読方法		
／	2	3. 分娩期に必要な看護技術 <演習> 陣痛・産痛の緩和法、呼吸法 4. 産褥期に必要な看護技術 1) 子宮底・乳房の観察 2) 産褥体操		
／	2	3) 新生児のバイタルサイン 5. 周産期の死に対する看護技術		
／	2	6. 新生児の看護に必要な看護技術 沐浴 <演習>		演習
／	1	試験		
教科書	A: 根拠と事故防止からみた 母性看護技術 医学書院			
参考書				
評価の方法	ペーパーテスト 授業態度			
メッセージ	助産師として実務経験のある講師が授業いたします。 妊娠、分娩、産褥期に必要な看護技術を一緒に学びましょう。			

授業科目名	精神看護学概論	担当講師名	専任教師 1 名
対象学生	2	単位-時間数	1-15
授業目的	精神保健医療福祉の変遷を知り、精神障がい者に対する倫理的態度を考察するとともに、精神看護の対象や目的・特徴・役割及び基盤となる理論を理解する		
授業目標及び概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・諸外国の精神保健医療福祉の変遷が理解できる</li> <li>・我が国における精神保健医療福祉の法律・制度の変遷が理解できる</li> <li>・精神障がい者に対する偏見や差別、スティグマについて現状を理解できる</li> <li>・精神障がい者に対する倫理的態度について考察できる</li> <li>・精神看護の対象および目的・役割及び基本的な考え方が理解できる</li> <li>・人間関係に基づく看護理論を理解し、関係構築・発展に必要なコミュニケーションの技法を理解できる</li> <li>・自己のコミュニケーション及び他者との関わりをプロセスレコードを用いて振り返ることができる</li> <li>・セルフケア理論を用いた看護アセスメントの基本が理解できる</li> <li>・ストレングス理論を用いた看護アセスメントの基本が理解できる</li> </ul>		
	時間	内容	授業方法
/	2	1. 精神保健医療福祉の変遷 諸外国の精神保健医療福祉の変遷 我が国における精神保健医療福祉の変遷	講義
/	2	2. 精神看護における倫理 1) 精神障がい者と倫理的課題 偏見・差別・スティグマ、自己決定の難しさ 2) 精神障がい者の意思決定を支える 精神障がい者のアドボケイト、自己決定権の尊重と共同意思決定 (SDM)	
/	2	3. 現在の精神保健医療福祉に関する法律と施策 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律 (精神保健福祉法) 心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律 (医療観察法) 他	講義
/	2	4. 精神看護の基本 精神看護の対象・目的・役割・専門性、ケアの原則 5. 治療的関係の構築 1) 関係構築と展開に関する理論 ペプロウ、トラベルビー、河野雅資ほか	講義
/	2	2) 治療的コミュニケーション コミュニケーションの基本、ケアコミュニケーション、ナラティブアプローチ、オープンダイアログ、 コンコダンススキル、ソクラテス式質問法、カウンセリング	講義
/	2	3) コミュニケーションを振り返る プロセスレコード、ロールプレイング	
/	3	6. 精神看護過程の展開 バイオ・サイコ・ソーシャルモデル (BPS)、Mental States Examination (MSE)、オレム・アンダーウッド のセルフケア理論、ストレングスモデル、コプロダクションモデル	講義
教科書	系統看護学講座 専門分野 精神看護学① 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野 精神看護学② 精神看護の展開 医学書院 系統看護学講座 別巻 精神保健福祉 医学書院		
参考書	授業内で紹介します。		
評価の方法	課題(講義中に指示)、出席状況		
メッセージ	看護師として実務経験のある講師が教授いたします。 精神障害者が地域で暮らすために必要なものは何か。私達にできる事は何か。色々な視点から考えてみよう。		

授業科目名	精神科医療と看護		担当講師名	非常勤講師 1 名 院外講師 1 名	
対象学生	2		単位-時間数	1-30	
授業目的	基本的な精神疾患とその診断と治療および臨床看護に関する基本的な知識、技術、態度について学ぶ				
授業目標 及び概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>精神疾患・障がいの診断とその基準および治療について理解できる</li> <li>精神疾患・障がいをもつ対象との関係構築の重要性や要領が理解できる</li> <li>精神疾患・障がいをもつ対象に対する安全性や倫理的配慮の重要性やその実際を知る</li> <li>主な精神疾患・障がいをもつ対象及びその家族に対する看護の実際を知る</li> </ul>				
授業展開 月日	時間	内容		授業 方法	教科書
／	2	1. 脳の仕組みと精神機能 脳の部位と精神機能、神経伝達物質と精神機能、ストレス脆弱性仮説、脳と免疫機能、睡眠障害とサーカディアンリズム		講義	A
／	2	2. 精神障害の検査 脳波検査、脳の画像検査、脳脊髄液検査、心理検査			
／	2	3. 精神障害の治療 薬物療法(抗精神病薬、抗うつ薬、気分安定薬、抗不安薬、睡眠薬、抗てんかん薬)、電気けいれん療法、個人精神療法、集団精神療法、心理教育、生活技能訓練、認知行動療法			
／	2	4. 主な精神疾患・障がいの病態と診断・治療 症状性を含む器質性精神障害、精神作用物質使用による精神・行動の障害、			
／	2	統合失調症/統合失調症型障害および妄想性障害、気分(感情)障害、神経症性障害/ストレス関連障害/身体表現性障害、生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群、パーソナリティ障害、習慣および衝動の障害、性同一性障害、知的障害(精神遅滞)、心理的発達の障害、小児期・青年期に発症する行動・情緒の障害			
／	2				
4/24	2	1. 精神科病棟への入院 入院時の状況の理解、事故防止・安全管理、行動制限(隔離・身体拘束)と看護		講義	B
5/8	2	2. 安全な治療環境の提供 トラウマインフォームドケア、病棟環境の整備と行動制限、自傷行為・自殺企図・自殺予防、攻撃的行動・暴力予防プログラム、災害時の精神科病棟の安全確保			
5/13	2	3. 臨床場面で患者と関係を作るということ			
5/20	2	4. 主な精神症状に対する看護 不安状態、心気状態、強迫症状、抑うつ状態、意欲減退、自閉状態、精神運動興奮状態、躁状態、幻覚・妄想状態、せん妄状態、操作性のある患者			
5/27	2	5. 主な精神疾患をもつ対象の看護 てんかん、依存症、統合失調症、うつ病、双極性障害、不安障害、強迫性障害、ストレス障害、解離性障害、パーソナリティ障害、発達障害、睡眠障害、摂食障害、性同一性障害を持つ対象の看護			
6/3	2	6. 身体合併症のある患者の看護			
6/10	2	7. 精神疾患・障がいをもつ対象の家族への看護 家族のストレス・健康状態・対処力・ソーシャルサポートおよび家族システムのアセスメント、家族への教育的介入と支援、家族-患者関係の調整			
6/17	2	8. 司法精神医療と看護 心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律(医療観察法)、触法精神障がい者の処遇			
6/17	1				
6/29	1	試験			
教科書	A:系統看護学講座-専門分野 精神看護学① 精神看護の基礎 医学書院 B:系統看護学講座-専門分野 精神看護学② 精神看護の展開 医学書院				
評価の方法	ペーパーテスト				
メッセージ	医師、看護師として実務経験のある講師が教授いたします。 精神症状、精神疾患について正しく理解するためにも、しっかり学んでください。				

授業科目名	医療安全		担当講師名	専任教師 1 名 非常勤講師 1 名
対象学年	2		単位-時間数	1-30
授業目的	医療事故に関する基礎知識を身に付け、対象の安全を守るために必要な安全対策を創意工夫する想像力・創造力を養う			
授業目標及び概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒューマンエラーのメカニズムと人間の基本特性が理解できる</li> <li>・国の医療安全対策の考え方や取り組み内容が理解できる</li> <li>・組織としてエラーが起こりにくいよう取り組んでいる対策の内容を理解できる</li> <li>・事故分析の考え方と具体的な方法について理解できる</li> <li>・看護業務に関わる主な医療事故について、その背景、要因、対策について理解できる</li> </ul>			
授業展開 月日	時間	内容		授業方法
/	2	1. 医療安全の基礎知識 1)なぜ医療安全を学ぶのか 2)医療安全にかかわる動向 3)医療安全の対象と基礎知識		講義 演習
/	2	2. 事故発生のメカニズムと未然防止 1)ヒューマンエラーとそのメカニズム		
/	2	2)ヒューマンエラーの特性		
/	2	3)未然防止 危険予知トレーニング(KYT)、医療における失敗モード影響分析法(HFMEA)		
/	2	3. 医療安全とコミュニケーション 1)コミュニケーションとは 2)コミュニケーションエラーを減らす伝え方		
/	2	4. 医療安全への取り組みと医療の質の評価 1)国の医療安全への取り組み 国の医療安全への取り組みの経緯、医療法における安全対策、診療報酬における医療安全対策の評価、医療安全管理者、医療事故の報告制度		
/	2	2)看護職能団体の取り組み		
/	2	3)チームでの取り組み チーム医療安全の発展と課題、teamSTEPPS、安全文化の醸成		
/	2	5. 医療事故への対応 1)事故発生時の初期対応		
/	2	2)事故発生後の中長期的対応		
/	2	3)事故分析 根本原因分析(RCA)、ImSAFER		
/	2	7. リスクマネジメントの実際 ~岡山赤十字病院での医療安全の管理の実際~		講義
/	2	8. 看護業務に関連する事故と安全対策		講義
/	2	1)患者誤認、タイムプレッシャー、途中中断による事故と対策		
/	2	2)診療の補助業務に関する事故と安全対策		
/	2	3)療養上の世話に伴う事故と安全対策		
/	1	まとめ		
/	1	試験		
教科書	ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践② 医療安全 メディカ出版			
評価の方法	ペーパーテスト 課題(授業中に提示) 学習態度			
メッセージ	看護師として実務経験のある講師が教授します。			